

休憩室

セールスマンの 張った予防線

(社)北海道地域農業研究所

特別参与 黒澤 不二男



亘理のイチゴ栽培ハウス



宮城生まれの大粒いちご

宮城亘理産 もういっこ

亘理のイチゴ

ルーツの地

私の曾祖父は、宮城県亘理郡小堤村（現・宮城県亘理町）の亘理伊達藩の下級武士でした。明治維新に時の新政権に敵対したことから、ペナルティとして亘理藩、会津藩に科せられた北海道開拓と北辺警備のために創設された「屯田兵制度」に基づく第一期屯田兵一九八人の一員として札幌「琴似兵村」に明治八年に入植しました。したがって私にとってルーツの地とは、亘理町なのです。その亘理町は、ほぼ平坦な農地を利用している稲作とともに東北最大の「イチゴ産地」として全国に知られています。

しかし、このたびの大震災で、営々と築いてきた農家の農地やハウス施設、選果等の共同施設も壊滅的な被害を受けました。ゆかりのある者の一人として、また同じ農業関係者の一人として痛恨の思いを禁じ得ません。心からのお見舞いと復興に向けての手厚い支援が一日も早く効を奏するよう祈っています。

なお、北海道伊達市も、戊申戦争で禄高を九割もカットされた亘理藩の藩主伊達邦成公が新天地を求めて臣下とともに集団移住した町ですが、その伊達市からルーツの亘理町へ、イチゴづくり等で営農を希望する方々を迎え入れたいという申し出がされ、新たな移住の試みが始まったことは、私にとっても最高の嬉し

いニュースでした。

◆◆◆◆ 弘前での経験とケイタイの効用

話は変わりますが、私は大震災の前々日の三月九日午前九時から、弘前市の旧相馬村公民館なるところの二階会議室で、新規就農希望者と研修受入法人のスタッフ一〇数名の方々を対象にお話をしました。

午前のカリキュラムの終了間際の十一時四五分ころ、「これで午前の部は終わりです」と言ったとたん、グラつとめまいを感じたので一瞬、脳卒中の発作かなという思いが脳裏をよぎりました。ところが受講していた人達も「地震だっ！」と騒然となりました。

一同、急いで階下に降りると、ロビーのテレビの前は職員の人垣、マグニチュードや各地震度の発表に加えて東京都内のビルでも相当揺れたというニュース。この地震は、「三陸沖大地震」と名付けられ、現在、大震災との関連が克明に検討されているようです。

さて、地盤がやや軟弱な夕張郡長沼町

で、「耐震基準改正」前に建てられた住宅に住んでいることからチョット心配になってケイタイで家内に連絡しました。

すると、「長沼もかなり揺れたけど、被害はないよ」とのこと。安堵すると同時に「そうか、日本列島はつながってるんだー」と妙なところで実感しました。

この日は、帰りの青森空港発千歳行き飛行機も、「雪害のため着陸出来なければ羽田へ降ります」とのことでしたが、やつと千歳に降りることが出来、夜帰宅するとドット疲れが出ました。

この週の十二日は上京して、十一日に先行していた北農中央会のK氏と合流することになっていましたが、その矢先の一日の大震災、当然会議は中止になりましたが、その連絡が入ったのが十一日の夜、都内にいるK氏と連絡を取ろうとしましたが、つながりません。

そこでケイタイメールを入れたところ、やつと返信がありました。震災の時間帯に彼は地下鉄駅構内におり、後で聞きました。だが相当の恐怖感を感じたとのこと、

ホテルには徒歩で帰ったようです。

北海道にも津波の危険が迫っているというニュースの中で、登別市在住の長男家族は海岸線から1kmほどのところに住宅があるので、心配して連絡をとるうにも、電話が通じない、ケイタイにも出ません。それでケイタイメールで「すぐ逃げろ！」と送信したところ、「今、裏山の高いところに逃げてる最中だー」と返信がありホット胸を撫で下ろしました。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 我が家のケイタイ利用と デジタルデバイス

先に述べた一連の出来事の中で、「非常時、緊急時にはケイタイは頼もしい味方だ」と痛感させられました。私がケイタイユーザーになったのは一〇年ほど前、家内は六年前になります。

これまでの、利用状況は、電話機能の他、アドレス帳がわり（約六五〇件ほど登録）、メール送受信と、外出時に職場と自宅のメールのリモートチェック、インターネットでニュースのヘッドライン

に目を通す位でした。

若い人達の利用度が高い音楽のダウンロードやゲームは全く無縁で、カメラ機能もほとんど利用せずというところでした。

家内は通常の電話機能のほかは、家族と友人との間でたどたどしい？メールのやり取りが主な用途でした。私は仕事のデータ処理やインターネット検索、メール等の連絡は主として職場のパソコンで、家庭のパソコンではメール、インターネット検索、趣味の動画閲覧、インターネットバンキングに利用しています。

比較的早い時期、インターネット時代以前に、パソコンユーザーになったことから同年代の友人達よりチョッピリ、デジタル機器を敬遠する度合いは低いかなと内心自負していました。

ところが、近年のハードウェアとソフトウェアというか環境の進展は日進月歩はおろかナノ秒単位という段階に突入していて、到底フォロー出来るレベルではありません。

それで、これまであまり実感していな

かったいわゆる「デジタルデバイド」(情報伝達手段の高度化に取り残されて置いてきぼりにされ、不利益をこうむること)が、にわかに我が身にふりかかってくるかのように感じ始めました。

種々のモバイル機器(音声、画像等)、テレビジョン、無線機器、パソコンの境界が限りなく小さくなり(シームレス化)、これらの媒体を意識せず自由に、情報のやり取りが可能になっているようです。その理論・仕組みは私たち世代の理解の枠をはるかに超えているのですが、このギャップがどの位深いかも情けないことに判らないのです。

そこで、ドンドン置き去りにされていくことを思い悩むのではなく、開き直つてこの進歩の果実を赤子のように、素直に味わう、利用するために、「何ができるか」、「どうすれば良いのか」の手順(操作手順)にしぼって最小限マスターすること、「公園のチンチン電車の運転手のお猿」になろうと思つたら大層気が楽になりました。



多彩なケイタイ端末

ケイタイ交換のてん末記

一方、利便化が進むとコストがドンドンふくらんできます。それは社会のインフラ整備にも個人の懐具合にも大きく響いてきます。身近の例では「地デジ化」は最たるものでしょう。我が家で、直近のケイタイ電話の請求書を開いて愕然としました。夫婦二台分で三万円を超えているのです。

「お前さんが使い過ぎるからだ」とか「あなたが使い過ぎよ」と言つても不毛の論議です。使いすぎは反省して改めることにしても、結局は、「このN社の料

金が割高なんでないの」ということになりました。

たまたま、家内のケイタイが更新期になつていて端末も傷だらけになつていことから、いつもは反対にまわる家内も「一応他社の見積もりを聞いてみようか」ということに。

タイミングよく飛び込みで我が家を訪れたS社のセールスマン、若く弁舌爽やかに、二人に最新機種カタログと料金プラン表を片手に押し寄せモード、勝敗の結果は目に見えていました。家内は最新型の「簡単ケイタイ」にカンタンに決まりましたが、私の分がなかなか決まりません。普通のケイタイか今はやりのスマートフォンか、優柔不断の私のこと、迷いに迷つていましたが、「普通ケイタイでもスマートフォンでも端末の価格は同じです」というセールス氏の言葉と「あなたが好きなのにしたら」という何時にない鷹揚な家内の一言で「よし、これにする!」と選んだのがS社の人気機種「○○○○〇〇―4」の白モデル。

画面に軽くタッチするだけで入力やタ

スクを切り替えられること、インターネット環境も自由自在、電子ブック閲覧も。多種多様なアプリ(ゲームや仕事用ツールの専用ソフト)が無料または安価に入手可能、パソコンと連携させることが可能、他モロモロ……。

というおぼろげな予備知識があつたこと、また親しい友人が最近購入したこと、長くない余生で少し難しいことにチャレンジするのもボケ防止にイイかもというのが購入の動機なのでした。もちろん以前の番号はそのままです。

セールスマン氏の予防線の中の

セールスマン氏は、私の決断を聞くと、なんと「私があなたにこの機種を無理に奨めた訳ではありませんからね!」と何度目もダメ押しをします。

「何それ、欠陥機種だからそう言うの?」と問いたただいたところ、「言いにくいんですが、お客様の年齢階層の人では使いこなすのは難しく、返品だ、交換だという申し出が多いのですが、責任は

とれないんですよ」と答えたのです。

そうです、この時が「それでは違う機種にするわ」と言うチャンスだったんですが、それを逃がしてしまいました。

宅配便で届いた端末を恐る恐る開けてみましたら、普通は付属する分厚い使用説明書がない! 家内には付いているのに。よく見るとマニュアルを見たい人はパソコンからPDFファイルになっている二三〇ページほどの説明書を「ダウンロード、プリントしてご利用下さい」です。なんと親切な!

それから、悪戦苦闘して利用のための初期設定、何種ものパスワード、今まで



スマートフォンの代表機種

の機種あのシンプルさがヨカッターと思っても後のまつり。

ショップに行つて列に並んで、やっと説明を聞いたり、「〇〇〇〇〇〇ー4」の先達である友人M氏の自宅まで押しかけ行つて教えを乞うたり大変でした。

購入後一〇日ほどでやつと、電話、メール、インターネット環境は使えるようになりましたが、数字や文字を入力する際、目的のところの隣を押してしまつたりするハンドリングの問題、それからパソコンと同調させるということの意味がまだスツキリ理解出来ないんです。先に理解する必要はないと書きましたが、「そうは言つてもね」と弱つたアタマ、思うように動かないユビを必死に動員している今日この頃です。

このままだとスマートフォンという言葉が泣きますね。「前のタイプのケイタイが良かったな」と後悔するのは、あのモーセに率いられて、新天地を目ざして虜囚のエジプトの地を脱出したのに、荒野で困難に直面すると、「虜囚でもエジプトにいた方がよかつたな



太い指と端末画面

あ」と呟いたイスラエルの民に似ているのではと歯を食いしばつても頑張るつもりであります！。オツと例えが大きさすぎるよね。とにかく、今度の機種は、単なるケイタイではなく、限りなくパソコンに近いものだとかを締め直して立ち向かっています。最後に、最も重要な点の以前より料金が安くなるかどうか、月末に請求書を開けるのが恐ろしい！

●天野祐吉（評論家）は言う。

「ケータイの登録数が一億をこえたという。一億総ケータイ時代である。が、みんながみんな、ケータイを使いこなしているとは言えない。私（天野）などは電話として使うだけで、その他のフクザツな機能にはほとんどお手上げだ。かなしい話である。

「CM天気図」 天野祐吉「取り扱い説明書の怪」(朝日新聞、二〇〇八・一・二二)